

共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業

第3回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

中部地区 (11月12日)

【出席者】

県立清武せいりゅう支援学校	校長	横山 貢一
宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科	専任教員	保田 浩美
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会	地域・ボランティア課長	大山 晃代
有限会社サン・グロウ	代表取締役	濱門 康三郎
一般社団法人 宮崎県手をつなぐ育成会	理事	井上 あけみ
宮崎市肢体不自由児・者父母の会連合会(県副会長)	会長	田中 聡子
NPO法人 障害者自立応援センターYAH!DOみやざき	副理事長	山之内 俊夫
宮崎市教育委員会生涯学習課	主任主事	松岡 真一郎
新富町社会福祉協議会	係長	嶋末 剛
県福祉保健部障がい福祉課	主幹	元長 貴司
県教育研修センター教育支援課	副主幹	疋田 雅樹

【協議の記録】

1. 内容について

- 両者1回目の話し合いでは、医療カレッジの学生が、目的や自分達の活動目的を把握できていなかったため2回目を設定した。そこで障がいのある人となない人が、一緒になって地域の中で互いに学び交流し合える活動を行うために、これからどのように進めていくのかという目的を確認した。この中で、キャンプをしてみたいとの意見が出された。
- キャンプをする前に互いを知り親睦を深めることが必要ということで、12月にボーリングや食事会をすることになった。
- 1月のコンファレンスでは、経過報告でよいとのことなので、これまで確認してきた内容で構成してはどうか。
- 実践発表では、実際に取り組んだ内容や結果を発表するケースが多いが、取組を始める時の当初や途中経過の部分を発表することもよいのではないか。
- 2回の話し合いや12月の余暇活動と併せて、両者の心理的な変容などを活動の流れと一緒に示してはどうか。当事者の声や活動の様子映像や画像を入れてはどうか。

2. 今後の展開等について

- 医療カレッジの学生は、キャンプの実施や今後の活動についても是非やりたいという気持ちがある。ただ同時に、国家試験も街課に控えているので、実際にできるのかという葛藤もある。
- YAH!DO みやざきの利用者にも不安や心配がある。
- 実際にキャンプを計画することを前提に進めてはどうか。その過程でいろんなことが見えてくると考える。
- 学生からは、とてもよい活動なので、YAH!DO みやざきの利用者がやりたいと思っていることを発信してほしい。
- YAH!DO みやざきと宮崎福祉医療カレッジのコラボであるが、今後は、他の学生や団体などにも広げてみてはどうか。
- 今の若い人たちの発想は以前と違い、SNSや動画投稿を使うなど方法や手段が多様化している。この若い人たちの発想を生かすべき。

### 3. 発表の具体的内容について

○構成は以下の3つにする。

#### ①YAH!DO みやざきの利用者の想い

日常は自宅と事業所の往復にとどまり、地域との関わりがない。利用者には、地域の人や同年代の人達との出会いや関わり、学びを実現させたい。

#### ②YAH!DO みやざきと宮崎福祉医療カレッジの出会い

#### ③現在取り組んでいることと、今後の展開などについて

動画や画像を入れる点は、編集をサン・グロウさんが協力することになった。

### 4. 1月22日コンファレンスのスライドショーについて

○ 地域に根ざし持続可能なものにしていく上での課題は、誰が主体となってやるのかである。今は井上さんが一人で行っているが、同じような役割を担ってくれる人があと数人必要である

○ このような活動に兄弟姉妹や多くの関係者を参加させることで持続可能な取組を担う人材を確保しているのではないか。

○ 行政の関わりも必要。また地域や関係企業等の力を借りることも考えられる。

○ 地域の学習会やイベントに参加した人達が、そこで得たことを基に、いろいろな所で広めてくれると人材の確保につながる。

共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業

第3回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

南部地区 (11月12日)

【出席者】

県立都城きりしま支援学校	教諭	川越 浩司
特定非営利活動法人宮崎県精神福祉連合会	会長	乗畑 貴志
霧島おむすび自然学校	事務局長	壹岐 博彦
子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ	会長	外山 明美
小林市教育委員会社会教育課	主幹	戸高 明廣
南部教育事務所	社会教育主事	堀川 貴史 (代理 甲斐 裕之)

【協議の記録】

1月22日(土)のコンファレンスの発表に向けた実践のすすめ方について

① 講座の内容について

- コンファレンスの実践発表では、生涯学習講座として、小林市教育委員会の公民館講座の中で「障がいのある方も参加できるバリアフリー講座」と位置付けて実施できればと考えている。
- 参加者が集まりやすいようにボランティアが来るということをチラシに明記するようにしたい。
- ボランティアについては社会福祉協議会に依頼すると協力していただけたらと思う。
- 開催日については、参加者が参加しやすいように土曜日がよいのではないかと。
- 平日でも午後の2～3時間であれば参加しやすい方もいるのではないかと。
- 障がい者ふれあいサロンなどとコラボするのもよいのではないかと。
- 様々な福祉事業所にも呼びかけるとよいと思う。

② 当事者団体のキャンプを通じた学びについて

- 障がいのある子どもとその家族が、経験を広げたり、それぞれ交流を深めたりする機会としたい。
- 開催日については、11月終わり頃を考えている。
- 空気が澄んでいるので星空を楽しめるとよい。
- テントに泊まる経験をすることによって、災害時を想定した「防災プチキャンプ」とも位置付けたい。
- 実際に災害などが起きた時の避難生活を想定すると、事前に体験しておくことはとても参考になりよい経験になると考える。
- 参加者人数は14名+αで想定している。

③ 発表に関して

- テーマについては、「行政・他団体との連携・協働」とする。
- 構成については、「行政との連携」との視点で、公民館講座を所管する小林市教育委員会と霧島おむすび自然学校の連携した取組を発表し、「他団体との協働」という視点で、ポン太クラブと霧島おむすび自然学校の協働した活動を発表する。
- 発表者については、霧島おむすび自然学校 代表 壹岐 博彦 氏とする。

共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業  
 第3回コンソーシアム連携協議会 協議の記録  
 北部地区 (11月12日)

【出席者】

九州保健福祉大学臨床心理学部臨床心理学科	講師	戸高 翼
県立特別支援学校 PTA 連絡協議会	会長	甲斐 麻央
日向市地域福祉コーディネーター連絡会	地域福祉コーディネーター	成合 進也
株式会社グローバル・クリーン	代表取締役社長	税田 和久
一般社団法人宮崎県作業療法士会	作業療法士	内勢 美絵子
宮崎 LD・発達障がい親の会 フレンド	会長	猪股 重子
旭化成アビリティ延岡営業所 総務課	総務課	笠 里美
延岡市教育委員会社会教育課	主任主事	串間 信之
北部教育事務所	社会教育主事	佐藤 良衛(代理 黒木宏和)

【協議の記録】

1. 1月22コンファレンスの経過報告内容について

- ・ コンファレンスの発表について、活動内容をまとめ報告する形で行いたい。
- ・ 視察の報告については、どのようなことを行っているかではなく、どのようなプロセスで作り上げたかを知りたい。
- ・ 本人発信の場があれば、話すことが苦手なひとでも使えるのではないか。
- ・ 県北地域でもいろいろな取組がなされていると思うので、皆で共有したい。
- ・ 発表は、アクションプランシートを作成して紹介する形式を考えている。

2. 今後の取組について

- ・ 講演の企画は、謝金や場所が課題となる。目処がたった後に予算がなく計画を止めたことがある。→ 行政としては、今年度の予算は決まっているので、予算については、前年度から計画を組み立てる必要がある。
- ・ 人を知り、繋がることで理解が深まる。まずは自分の周囲の人に声をかけている。
- ・ 子どもの方が変なバリアがない。障がいを学ぶというより、知る機会があると良い。学校でそのような授業はないのか。→ 小学校では、道徳で扱うことはある。
- ・ 学校からアイマスクや白杖体験の依頼があるが、なぜ体験するのかを明確にする必要がある。
- ・ オンラインでの活動で県外の人と繋がることのできた。(横浜や京都から)
- ・ 公民館講座に入れてほしいが難しい面もある。
- ・ 九州ブロックの発表なので、発信する良いチャンスだと思う。様々な情報を掲載しているようだが知らない人がいる。発信の仕方を変えると良いのではないか。
- ・ 会社組織となると大きくなるので、個人を巻き込んでいきたい。
- ・ 都城市在住であるが、遠隔地にいてもできることを考えている。調査分析はできるし、相談してもらえればどこにいても協力できる。
- ・ 行政の本気度が試されていると感じた。事業を見直し、変えていけば認めてもらえるのではないかと思っている。
- ・ 共生社会の言葉が一人歩きしている。現状把握ができていない。障がいのある人もない人も参加できる状態をつくるため、事業化するとよいが財政的な問題もある。
- ・ 延岡市役所は、全国で一番初めに障がい者の清掃雇用を始めた。本気で取り組んでいると思う。
- ・ 「みんな違ってみんないい」が実現できるとよい。学びたい意欲はあるので、講座ができるとよい。講師を一覧にまとめておくとよい。

- ・ 共生は地域づくり、地域福祉そのものである。理解してもらうことから始まる。
- ・ 継続するには実績が必要であるため、研究として行う方法がある。どんな点に困っているか調査して、結果を分析することはできる。